

日高山脈襟裳十勝国立公園協議会設立総会 議事要旨

- 日時:令和6年8月 27 日(火)13:30~15:30
- 場所:十勝総合振興局講堂(WEB 会議併用)

■ 議事概要:

1. 開会

- ・北海道地方環境事務所 所長 山本より挨拶
- ・最大の魅力である原生的な自然環境や、ここで育まれたアイヌの文化景観等を保全し、後世につなぎ渡していくとともに、この公園の魅力をより一層高め、国民や世界中の人々にその魅力を伝え、体感していただきたい。これから協議会で議論し、公園の望ましい姿を「ビジョン」としてとりまとめる。その後、ビジョンを実現するため、管理運営方針や行動計画、保護や利用のルールのあり方などについて、丁寧な議論をさせていただきます。
- ・国立公園満喫プロジェクトとして、我が国の国立公園を世界水準の国立公園としてブランド化を図る取組が進められており、「全ての国立公園に高級リゾートホテルを」との報じられ方もあった。やや誤解もあり、高級リゾートホテルに限定せず、宿泊施設の誘致を含む滞在拠点の上質化を行うなど、民間の力を活用して、国立公園の利用を促進していくもの。いずれにしても、地域の理解と環境保全を前提として、また、公園の特性や事情を踏まえて進めていく。
- ・また、国立公園満喫プロジェクトの本来の趣旨は、日本の国立公園の優れた自然環境の適切な保護と、地域の資源としての有効活用を図る取組み。先行地域では、外部の視線で地域の自然を見つめ直すことで、地域の自然や文化の価値を再認識する良い機会だとの声もある。この公園は最も新しい国立公園で、アピール力があることに加え、全国の先進事例を参考にできることも強みとして、取り組んで参りたい。
- ・本日をスタートラインとして、地域の関係者の連携の枠組みを構築し、皆様と、この公園を地域が誇れる、より魅力ある国立公園に磨き上げていきたい。

2. 議事

(1) 審議事項

1) 日高山脈襟裳十勝国立公園協議会規約(案)について

(資料1について、事務局より説明)

<質疑> ※→:事務局

・規約の「第 8 条(部会)」について、現在設置を想定するものはどのようなものか(日高北部森林管理署長)。

→これから議論をしていくことだが、事務局としては、一般の方が利用しづらいコアな山岳部分の利用とその保全、また、一般の方の利用の促進の大きく2つ議論のポイン

トがあると思っているので、それらを検討する部会を想定している。
→規約(案)が承認されたので、本日付で施行する。

<構成員挨拶>

(各構成員より挨拶)

2)本協議会の進め方について

(資料2-1、資料2-2について、事務局より説明)

<質疑・意見> ※→:事務局

・保護や利用について課題も既に指摘されているので、幹事会や部会で相談し合意のもとに取り組みを進めつつ、計画・取り組みを見直すという順応的なやり方も必要(愛甲教授)。

・国立公園になってから自然環境がよろしくなくなっている、人が増えたということもあって、そうした早急に取り組むべき課題をどのように対処するか(日高町長)。

→スピード感をもって議論していかなければならないこともある。部会の設置は次の協議会以降としているが、協議会を書面開催として部会を設置することも考えたい。

・自然保護官の数をぜひ増やしてほしい。この公園は日本で最大の国立公園、しかも原始的な自然が残っている。それにふさわしいことができる人員を確保すべき(十勝自然保護協会共同代表)。

→国家公務員の定員に関わり容易ではない。レンジャーにアクティブレンジャー、地域の方々との連携も含めて総合的に考えていきたい。管理に支障がないよう、体制をとっていく。

・国立公園になり非常に登山利用者が増えた。これから更に増えてくると、山は汚れてくる。携帯トイレ利用などの考え方を広めていきたい。遭難対策についても検討が必要(十勝山岳連盟会長)。

・ビジョン、行動計画について、見直しなど位置づけを説明してほしい(新ひだか町長)。

→国立公園のビジョンは、国立公園の望ましい姿、あるべき姿を描く。行動計画は具体的なアクションプランを作っていくもので、数年に1回見直しを図る。ビジョンも管理運営方針も公園計画に位置付け、公園計画は約5年に一度見直しを図っていく。

・当町では、各消防署に救助のための備品装備を、今秋までに予算措置をして揃え、山岳救助できる人材を育成していくなど、行動計画に含まれることも既に取り組んでいる(新ひだか町長)。

・国立公園化により、地域振興と平成28年災害後の再整備・復旧に期待。省庁間の垣根なく、協議会として要望できるようなビジョン、行動計画にしていきたい。観光だけではなく、登山利用される林道の復旧なども、ビジョン又は行動計画に盛り込んで

頂きたい。オーバーツーリズムも心配だが、国有林が多いので、その利用環境を復旧することは必要と思う(芽室町長)。

・保全や利用に関して、現状、どんな取り組みが行われているか、どんな問題が起きているのかを共有してからスタートするのが良い。漠然と登山道が荒れているということではなく、具体的に〇〇岳でどういう問題が起きているなど、より具体的な現状と課題を認識共有してから進めていく方が、議論が深まるのではないか(十勝総合振興局長)。

・ロングトレイルの取り組みが良いと思う。10月には道東に北海道東トレイルが開通する。また、東北地方のみちのく潮風トレイルは非常に人気で、国内外の多くの方が利用している。今回国立公園のエリアでも、イザベラバードの道、様似八景フットパス、様似山道、東十勝ロングトレイル等がある。日高山脈は非常に険しく気軽には入れないので、国立公園の中に踏み込むだけではなく、ぐるっと取り巻く一般道も含めて、日高の山並み、風景などを楽しめるトレイルを検討してはどうか。(北海道運輸局観光部長)

→ロングトレイルは世界的にすごく人気があり、日本でも盛り上がりが見えている。公園内だけでなく、周辺も含めて日高山脈を見るというトレイルも良いプランと思う。

(2)報告事項

1)日高山脈襟裳十勝国立公園指定記念式典の開催結果について

(参考資料1について、事務局より説明)

2)各構成員より情報提供、情報交換について

(参考資料3、4、5、6、7について、各構成員より説明)

<その他> ※→:事務局

・次回以降、懸案事項などの資料をお持ちして、国有林としても、地域や環境省の皆さんとともに協議会の場を活かし、課題解決に取り組んでいきたい(日高北部森林管理署長)。

・国立公園が指定されてから2か月余り経過したが、SNSの発信が少ない。初年度はアピールする上でとても大事なタイミングである。また、日高側からの登山者がオーバーツーリズム気味ということを鑑みると、環境省だけではなく、自治体側も連携しながら、多面的に発信していくことで抑止力になる。早急に、日高山脈のPR+適正な利用について、日高山脈は原生的な自然をしっかり守る、それを前提に利用していただきたいというメッセージを明確に早いうちに出しておくべきではないか(中札内村長)。

→環境省での広報媒体作成が追いついていない。振興局で適正利用についてポスターを作成しているので、構成員間で共有し、環境省でも発信できることはしたい。

・環境省インスタグラムにはたくさんの方のフォロワーがいる。個別の自治体、団体で発信

するよりも、環境省が多言語発信することで、日高山脈襟裳十勝国立公園が誕生したことを世界にアピールできる。我々シェア、いいねなどで応援できると思う(中札内村長)。

・やはりスピード感を持ってやらなきゃいけない。次は幹事会となるが、幹事会后に1回目の部会の立ち上げができるぐらい、準備をしっかりといただいて、時間を無駄にしないでみんなでやっていきたい。遭難やオーバーツーリズムは本当に大事な話。悠長なことはやってられない。会議の資料が前日に来るようなこともないよう、よろしくお願いしたい(日高振興局長)。

3. その他

・今年度の幹事会は、国立公園ビジョンの作成を主題として3回開催する予定。必要な情報や共有した方がいい情報などは、適宜メールなどで情報共有させていただく。